

# 史跡加曾利貝塚総括報告書の概要

## 1 作成の目的

- (1) 加曾利貝塚の過去の発掘調査の成果を全体的に見直し、残されている記録類に基づいて加曾利貝塚の価値を整理し、今後解明すべき課題を明らかにする。
- (2) 今後の整備・活用の方向性を検討する際の基礎資料とするため、遺跡の保存の経緯など、加曾利貝塚の文化財保護・活用における歴史をまとめる。

## 2 本書の構成

- (1) 表題： 史跡加曾利貝塚総括報告書
- (2) 全体の頁数： 約1,200ページ 3分冊（函入・付録DVD付）
- (3) 本書の構成： 下記のとおり

### 巻頭写真・序・例言・凡例・目次

#### 序 章 総括報告書作成の目的と方法

過去の報告書や出土遺物の整理などを取りまとめるうえで必要な前提条件を整理するとともに、編集体制やその経過を記載。

#### 第1章 自然環境と周辺遺跡

加曾利貝塚の位置や周辺の環境を記載。

#### 第2章 加曾利貝塚の調査・研究・保存の歩み

考古学史との関係や、現在に至るまでの保存・活用の経過を記載。

#### 第3章 各調査の内容

北貝塚・南貝塚など過去の発掘調査を地点別に分け、その概要を記載。

#### 第4章 遺物

過去の発掘調査で出土した遺物（土器・石器・貝製品など）や、外部（他の研究機関や博物館）で保管している資料を記載。

#### 第5章 動植物と埋葬

動植物遺体や、ヒトやイヌの骨の出土状況や埋葬の概要を記載。

#### 第6章 自然科学的分析の成果

出土した石器や動植物、人骨などの科学的分析の結果を記載。

#### 第7章 発掘成果のまとめ ※右で詳述

#### 第8章 総括 ※右で詳述

#### 巻末資料

関連文献リスト、主要文献の再録、関連年表、保存運動関連資料

#### 写真図版

抄録・英文目次・英文要旨・奥付

付録DVD（1枚）

遺構写真・遺物写真・遺構一覧表・遺物一覧表・6章分析データなど

※今後の校正作業等によるページの増減有り

## 3 発掘成果のまとめ・総括

### 第7章 発掘成果のまとめ

【対象】 昭和37年から平成26年までの発掘調査 計13次

- 1 集落と貝層の形成過程と特徴
  - ・今まで詳細が不明であった集落と貝層形成の変遷が把握できた。
  - ・北貝塚は中央に窪地をもち貝層を環状に高く積み上げる集落と貝塚の最も古い事例。
- 2 出土遺物の内容と特徴
  - ・土器4,100点、土製品1,329点、石器・石製品1,761点、骨角歯牙貝製品1,042点を掲載。
  - ・土器、石器をはじめ、各種出土遺物の全体像を示す。
- 3 素材の入手・利用
  - ・石器について石皿・台石、磨製石斧、打製石斧の破損率が高く、再加工・転用が目立つ。
  - ・貝製品の素材は中期と後期で明確に入れ替わる。動物素材は優品が集まっている。
- 4 動植物の利用
  - ・貝類ではハマグリ、イボキサゴを中心にアサリ、シオフキを含めた4種が大半を占める。
  - ・魚類ではクロダイ属が圧倒的に多く、内湾性魚類が目立つ。汽水～淡水魚も確認。
  - ・植物ではクリ、クルミが多く、アズキ、トチ、クヌギ、コナラ、ヒシ、鱗茎類などを確認。
  - ・土器圧痕の調査でキハダやダイズ属、エゴマなど食用となる植物を確認。
- 5 埋葬
  - ・全体で最小個体数231（埋葬骨70、散乱骨161）体を数え、県内最多。
  - ・発掘面積に比べ、人骨の出土が非常に多い。

### 第8章 総括

加曾利貝塚が縄文時代を代表する遺跡であることを本報告書の成果に基づき、記載する。

- 1 発掘成果からみた加曾利貝塚の重要性（7章に基づき）
- 2 日本の歴史における貝塚の重要性と加曾利貝塚の位置付け
- 3 日本の考古学・貝塚研究における加曾利貝塚の意義
- 4 文化財保護・活用の歴史上の加曾利貝塚の意義
- 5 加曾利貝塚の今日的な意義と今後の活用

※保存活用計画の内容との整合を図る

### 今後の課題

- 1 地形測量と過去の調査地点の明確化
- 2 旧調査地点の再調査と計画的な発掘実施
- 3 貝層調査・分析方法の確立
- 4 集落構造や遺跡の形成過程の解明
- 5 生産活動や社会・経済の解明

中長期的な調査研究計画の策定  
計画的・継続的な調査研究

特別史跡の指定に向け、  
加曾利貝塚の価値の周知